

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム福寿荘	評価実施年月日	H19.4.30
評価実施構成員氏名	石川あゆみ 武田 幸 宮部 太郎 敦澤 幾美 大久保可奈 松本 望		
記録者氏名	石川あゆみ	記録年月日	H19.5.1

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に「安心して暮らせる社会づくり」とかけ、日々取り組みに挑戦している。		「安心して暮らせる社会づくり」との法人理念をさらに日常の中で具体化していきたい。たとえば、一人の人の社会的なネットワークの活用など。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日業務に入る前に理念を見てから、なにかあったら理念にかえる、ということを職員間で決めている。また、何かを判断する場面においては必ず理念を根拠としている。		法人理念をさらに掘り下げ、日常のケアの一場面においてどうなのか、という確認の場をもっと細かく設けて生きたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族にはもちろんのこと、地域運営推進会議、町内会の総会等でもお話している。		その人、その人の認知症の状態にもよるが、地域の中で暮らしているということの実感が持てるように、様々な角度で対応してまいりたい。現在はご家族のご協力の下、地域でのようしもの参加や、そのほかご本人にとって大切なことを援助する場面においてご協力いただいている。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	できるだけ、来られやすいような雰囲気づくりをおこなっている。また、ご近所の方のご挨拶を始め、地域の方との情報交換や、必要なときには相談をしている。		町内に住まうものとして、心地よい間柄であるよう、皆さんの思いが少しでも感じられるようなコミュニケーションを図ってまいりたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事はもちろんのこと、グループホームを知って、また必要なことがあれば力になっていきたい、ということをお伝えしている。		より地域の行事や地域の中で必要とされていることに、参加できるよう取り組んでまいりたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の総会等で認知症のこと、介護保険サービスのことでお答えできることができれば、そのことについて相談を受けるむねお伝えしている。		地域でお困りのことがあれば、どなたでも相談にきていただいたり、お話をしていただけるよにまずは、日常的なコミュニケーションを図ってまいりたい。そのために、外での作業やお年寄りとの散歩など積極的に行ないたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎年実施しており、その後も見直しをしている。取り組みに生かせるよう、いつでも目に付くところにおいている。また、指摘された部分については速やかに改善に対して取り組んでいる。		見直しをするために、評価をすぐ取り出せるようにしている。その見直しを定期的にまた、効率よく取り組めるよう工夫したい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容を検討し、日々の地域でのGHでの取り組みに反映している。		地域の方たちの意見をさらに聞いていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者とのやりとりは様々な中で行っている。会議、での連絡等。また社長が市の認知症についての講演等行なう中で、連携を密に図りサービスの向上に反映している。		現在、区での在宅ケア連などを通し担当者との連絡をとっているが、さらにできることを拡大してまいりたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度を利用している入居者も居るため、制度についての周知徹底をはかっている。		その方だけではなく、違うケースでの対応についてはどうであるのか、など制度利用についての検討を通し、広く高齢者の権利擁護についての意識をさらに高めて生きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	周知徹底している。社の理念に基づき権利擁護という視点から、努めている。		より高度な意識をもって、入居者の生活をみていけるよう学び続けて生きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時にお話を伺いながら、ご説明している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見は随時話を聞き、可能な限り対応している。また、ご家族を通し本人の意見を把握していただけるよう、はたらきかけ、またご家族から第三者機関へ相談できるよう、相談窓口をあらゆる機会にお伝えしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ご家族が来訪されるたびに、生活の記録を開示しみていただいている。かなりの頻度で来訪していただいているため記録も細かく見ていただいている。また、毎月請求書とともにホームの様子を記したお手紙を同封している。ご家族によってはお電話や個別のお手紙などを郵送する。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会をもうけ、随時お話をうかがっている。また、相談窓口についてのお知らせをその都度している。玄関口にご意見箱を設置している。また、ご家族から伺った事項について、すみやかに会議し対応している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議を定期的に設けており、スタッフの意見を聞いていく場をもうけている。また、すみやかに対応すべき事項については管理者会議にて対応している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入居しているお年寄りの状況をみなではなしあい、必要な時間帯での介護がきちんとできるよう対応している。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>必要最小限に抑えている。お年寄りにはそれぞれにあった対応をしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験年数にあわせた社内研修が計画だてられ、そのとおりに遂行されている。		それらを実践での場面で具体的にお伝えすること、また、それぞれの課題が明確になるような機会をさらに設けて生きたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他の事業所の管理者との連絡を取り合い、コミュニケーションをとる機会が多い。また他のスタッフは研修の場での交流を持っている。		スタッフのモチベーションがあがるような他の職員との交流を日常的に設けていけるよう、考えていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の段階に応じての研修の場や個人面談などを通してストレスを軽減させる環境を作っている。		毎日の自分たちのやっていることの確認ができるような記録の場での意識、勤務時間でのフィードバックなどがよりたかめられるとよい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	お年寄りに対してどういうケアをしていくのか、していきたいのか、お年寄りへのサービス提供に対し「お年寄り本位」を貫くことを追求させてもらえるため、モチベーションを高くできる社風である。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	今、本人が困っていることは何かを聞く。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家庭訪問や、ホームに来訪された際などまず困っていることをお聞きし、必要に応じて再度家庭訪問をしたり、お電話をしたりする。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の様子をみて、またご家族の話をきき、第一にその方にとって必要なことを考えている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にご本人、ご家族とホームの見学をしてもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩から毎日たくさんの愛情や知恵をいただいている、というおもいで過ごしている。また、スタッフがわかいこともあり、本当に支えあっている生活である。		なによりお年寄りが全てを教えてくださっている、との意識をもっと高めていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族より本人のことを沢山お聞きし、学び、そのことを感謝していることを伝えている。また、スタッフが若いということもあり、二人三脚での状態である。		お年寄りのことを誰よりも心配し、支えてくださっているご家族の思いこそ、ケアにとって必要な情報であるため、いつでもご家族にお聞きしていくことを忘れず、確認しあっていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人やご家族から関係等についてお聞きするが、これからどう双方がすごしていきたいのか、しっかり話し、双方にとって大事なことが大切に扱われるよう、話をしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り関係が維持されるよう働きかけている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりの他者への思い、関係性の把握に努め、居間台所など適宜空間を有効活用しながらお互いに不快な思いをしないよう努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	解約したことで、ホームの中でのケアは完結したが、継続して必要なことがあれば応じている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望を聞き、可能な限り希望にそえるように努力している。		その思いを具体化していくためにケアを展開できるよう取り組んでいるところ。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や以前利用していた、各種サービスの関係者等からの情報をもとに一人ひとりの馴染みの暮らしの把握に努める。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人のできること、できないことを日々観察し、本人が無理なく一日を過ごせるよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成時にはスタッフ間のカンファレンス、ご家族への提示、その際の説明、ご意見を伺いながらの作成、との過程をへている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	随時作成し、ご家族にも承諾をいただいている。また、ご家族の大切なご意見をいただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に介護計画に対しての評価欄を設けており、実践の結果や気づきを記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方の受け入れや、消防の協力を得たりしている。		まだまだ一人ひとりのお年寄りに焦点をあてた協力体制の形成ができていない。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス機関のかたと区の在宅ケア連絡会とうではなししている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括の方と、ホームの入居者のことや高齢者全般について話し合っている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人を軸に、主治医との連携が作られている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力してくれる医療機関がある。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週に一回事業所の看護職員がお年寄りを看ている。又、協力医療機関の看護師との24時間の連携も取れている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医の紹介で入院する医療機関が決まっているので、認知症についての理解が得られている。そのため相談に応じてもらっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族に本人の希望を前もって聞いておいていただき、主治医も交え状況に合わせた方針を決めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医との連携を取りながら、ホームでできることをやっている。		終末期をむかえるにあたり、それ以前の入居当初よりのアセスメント、そしてケアが重要であると考え、日常的なケアの評価が大切であると考え。また、お年寄りの状況の変化に柔軟に応じ、お年寄りの暮らしたい暮らしを提供できるよう、チームでの取り組みに挑戦している。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	今までご本人が大事にしてきたもの、事を継続してグループホームでも大事にしていけるように、ご家族との話し合いの元、ケアプランを作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報を必要以上に出すことはせず、本人のケアに必要であり且つ本人のためになると判断されるとき以外は、使用しない。また、一人ひとりの言葉の受け止め方を十分把握し言葉かけをおこなうよう努めている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>本人が自分の意志を表現できるよう、本人の状況に応じて働きかけている。場合によってはご家族にもご協力いただいている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>本人の希望を聞きながら、出来ることは可能な限り対応している。</p>	<p>本人の過ごしたい一日を提供できるよう、日々アセスメントをしている。また、お年寄りの変化についていけるよう随時評価をしている。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人が好む服装ができるよう支援している。理容・美容は可能な限り本人の望む店に行けるよう、ご家族にも協力いただいている。</p>	<p>本人が今まで大切にしてきたおしゃれを大切にできるよう、随時本人やご家族に確認している。そのためのアセスメントをさらにしていきたい。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材の買い物、食材を切るなどの簡単な調理、盛り付け、食後の茶碗拭き等、個人個人のできることを活かしながら、食事が楽しめるよう取り組んでいる。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの状況に合わせ、本人が食べたいもの、飲みたいものが出来る限り提供できるよう支援している。</p>	<p>ホームでの食事やおやつを本人にとってよりよいものであるよう、随時検討している。また、食品の管理がある程度できるかたにかんしては、好きなときにおやつが食べられるようご家族とも相談の上、自室でも置いている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の家庭でつまづいている事をアセスメントし、必要な方にはトイレ誘導を実施しトイレで排泄できるよう、不快の軽減につながるようにしている。		排泄が生活の鍵をにぎっているため、十分な把握をしていけるよう取り組んでいる。またより快適な排泄行為となるよう環境、本人の体調管理をより十分に行なっていきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの状況を見て、人により入浴するかどうか、時間帯をどうするか、本人に確認しながら取り組んでいる。また、『入浴』が分からない方にも楽しんでもらえるよう取り組んでいる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の疲労具合に応じて、適宜休憩を取れるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに応じてやりたいこと、できることを提供している。 (例)庭掃除・お茶パック詰め・洗濯物たたみ...		より一人の出来る事を活かしたやりたいことを具現化していく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じて、お金の所持、使用を支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・美容室など入居者の希望に沿い、可能な限り支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	温泉や外食、お買い物等、計画を立てて行っている。		今、本人にとって行きたいところ、行きたいけど遠慮しているところを随時アセスメントしている。そのための計画を柔軟にできるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者から希望があれば、受け取る相手にも配慮しつつ支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が来訪した際は、居室でゆっくりと思うように過ごしていただくよう支援している。		ご家族にとっても過ごしやすいホームであるよう、共有部分についても配慮している。また、ゆっくりと皆で過ごせる環境を整えている。
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切せず、ケアをしている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵をかけることは一切ない。玄関は夜間のみ、防犯の意味で施錠している。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はスタッフが協力連携し、目を行き届かせるよう努めている。夜間は見廻り、見守りを徹底している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者一人ひとりに合わせた対応をしている。なくすのではなく、こちらでお預かりし使用するときには見守りの徹底に努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	お年寄りそれぞれの危険な部分について、スタッフは情報を共有して安全に対応するようにしている。(例)転倒の恐れのある場合 すぐに支えられる位置での見守り		事故を防ぐための知識を得られるよう、研修等おこなっている。日常的、具体的な場面での対応について危険と思われる状況での確認がもっと頻回必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故時の対応手引きを備えている。		日常的に取り組んでいく場面をもっと持っていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近所の住民の方々との関わりは、普段の挨拶などや、運営推進会議に出席していただいたりとして、保っている。そこで協力を得られるよう働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ケアプランを作成する際、現状のご本人のADLやIADLについて話し、起こり得るリスクを話している。その際、最善の対策を話している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さな変化にも気を配り、報告・連絡・相談を常に心がけている。		カンファレンスで話し合った内容を記入するノートがあり、共有をはかっている。また、その情報を得ようとする、また生かそうとする意識を一人ひとりさらに強めていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬カードをスタッフがいつでも見られるよう保管しており、必ず目を通すようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの状況に応じて対応している。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ず磨き、うがいを促し、介助が必要な入居者に対しては、介助で行うようにしている。		かかりつけの歯科医がいるため、その人の状況に応じて受診、往診をしている。そのさい、口腔ケアについて指導を受け、行なっている。また、より口腔ケアを充実してとりくめるよう、観察が必要。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲食量を記録に記入し、目標量を設けている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	入居者、スタッフともに、常に清潔を心がけ、うがい、手洗いの徹底をしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日まな板の漂白をしている。台所まわりで汚れがある場合はすみやかに掃除をする。また、冷蔵庫の中も常時整頓、消毒をしている。		毎日消毒するものや場所がきまっている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭を整え、花壇や畑にして工夫している。		外での活動を地域の方がみられることにより、このホームでの活動を知っていただけることから、外での活動もそういった情報を提供する意義もこめて行なっている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りやカレンダーなどで工夫している。また、お年寄りにとって居心地よく今までの暮らしを大切にできるような、空間となるよう工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	できる限り入居者が心地よく過ごせるよう努めているが、全員に目が行き届いていない部分がある。		入居者一人ひとりが不快な思いをすることなく、快適に過ごしていただけるよう、もっと配慮したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など本人が使い慣れたものを使っている。また、配置や居室の様子等、本人の好みに合わせている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ちょうど良い温度、湿度を保つように努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段、廊下、トイレ浴室に手すりを配置している。不安定なものはよけるなどして、安全を考慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	例えば、トイレには、分かるように赤いマークを貼ったり、混乱する前に誘導するなど、一人ひとりの力、状況に合わせたケアをして、生活を支えている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭にベンチを置いたり、花壇や畑など、入居者が行きたいときに行けるよう、支援している。		

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない

V. サービスの成果に関する項目

項目	取り組みの成果
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くない
98 職員は、生き生きと働いている	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

一人一人の暮らしを支えていく中で、グループホーム全体としての互いの支え合いを強めよう工夫している。
 お年寄りの人生の中での望みをよく汲み取りたい。ケアマネを中心にとらえている。